

テーマ

学齢児吃音のグループ指導

日本コミュニケーション障害学会 吃音および流暢性障害研究分科会は、本年もワークショップを開催いたします。ワークショップのテーマは、「学齢児吃音のグループ指導」です。学齢児に対しては、ご存知のように医療と教育の両分野からのアプローチがあります。国内外において、昨今では発話症状のみに焦点をあてるのではなく、児童の心理的側面の成長を目的とする介入がより重要視されるようになりました。このような中、改めてグループ指導を実施している現場の実態を知ること、より効果的な実施方法について考える時間を設けたいと思います。

実施方法

オンライン

- (1) ビデオ会議システム (Zoom) 2024年12月14日(土) 10:00～12:00
- (2) オンデマンド配信 2024年12月20日(金)～2025年1月18日(土)

プログラム (司会 筑波大学 宮本昌子)

ことばの教室におけるグループ指導についての実態調査より (岐阜大学 村瀬忍)

小学校に設置された155校の言語障害通級指導教室を対象におこなった吃音児のグループ指導に関する質問紙調査の結果を報告します。その結果を英国の調査と比較しながら、言語通級指導教室における吃音児のグループ指導の現場と課題について考察します。

グループ指導の実際 (茨城大学 石田修)

小学校の全学年を対象とした縦割りグループ指導の実践を紹介します。異学年集団でピア(仲間)との交流を重ねていくなかで自他理解・吃音理解の深まりやコミュニケーション力の向上などの学習効果を得られることが期待されます。本発表では、ことばの教室で実際に行われた活動をもとに、縦割りグループの編成や個別指導とグループ指導の学びの連続性をもたせる工夫などについても紹介します。

ミニグループ指導の実際 (府中市立住吉小学校きこえとことばの教室 高橋三郎)

筆者は吃音児2～3名程度のミニグループ指導を実施しています。本発表では通常の個別指導とミニグループ指導の関係について説明し、具体的な活動内容を紹介します。また、大人数を対象としたグループ指導と比較し、ミニグループ指導のメリットとデメリットについて考察します。

グループ指導における成人当事者と児童の交流 (筑波大学 飯村大智)

グループ指導の中には成人の吃音当事者をゲストスピーカー等と呼ぶ場合もあると思います。本発表では成人当事者と児童の交流について自身の体験も交えて具体的な実践例を提示し、吃音のある児童、保護者、教員、そして成人当事者にとっての活動の意義について考察します。

対象 吃音のある学齢児の指導・支援に従事されている先生(ことばの教室、言語聴覚士など)

*日本コミュニケーション障害学会の会員以外の方も参加可能です

参加費 無料 (申込は必要です)

参加申し込み

参加申込締切 2024年12月10日(火)

参加申込は、以下のURLにあるお申し込みフォームからお願いします。

(QRコードからアクセスできます)

<https://forms.gle/ucmDGB6GPTXraywi9>



お問い合わせ先

日本コミュニケーション障害学会吃音および流暢性障害研究分科会代表

酒井奈緒美 (国立障害者リハビリテーションセンター研究所)

sakai-naomi@rehab.go.jp

〒359-8555 埼玉県所沢市並木4-1 国立障害者リハビリテーションセンター研究所